

令和7年11月20日（木曜日）

玖珠町立くす星翔中学校 前田 光貴先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「図形の性質と合同」。くさび形四角形（凹四角形）の角の大きさの求め方について、補助線を引くなどし、既習の考え方に帰着させて問題解決を図る場面です。

導入では、前時までの学習内容である平行線の性質や三角形の内角と外角の関係について振り返り、板書に位置付けるなどし、本時の問題解決に向けた手立てを示す工夫がなされていました。問題を提示する場面では、問題から分かっていることや求めるものを生徒と丁寧に確認するなどし、全員で追究すべきことがらを明確にし、課題設定を行っていました。

また、個人で課題解決に向かう場面において、個人思考の後、自らの考えを明確に示すことができない生徒に対して、ペアやグループでの対話や解説動画の視聴（図1）などの手段を提示し、一人一人に合った学習方法を選択させるなど、主体的な取組につなげる工夫がなされていました。



（図1）

角の大きさを求める際には、単に角の大きさのみを求めることのみで終わることなく、その過程に用いられている図形の性質や関係を明らかにしながら説明させるよう指示を出すなど、本時の活動が今後の学習内容である証明の学習につなげることができるよう配慮した授業がなされていました。

事後研では、統合的・発展的に考察する力の育成を目指した問題設定の工夫や生徒の考えを生徒同士で補完するなどしながら数学的な表現を高めていくことの大切さ等について確認しました。

前田先生は算数・数学の問題発見・解決の過程をイメージした授業づくりに取り組んでいるそうです。この取組を続け、この過程を自立的、協働的に遂行できるような生徒の育成に努めてほしいと思います。

